美濃陶磁歴史館だより

連続コラム　うちんたぁのお宝、なんやね？

第21回　中上良子　陶磁器デザイナーとして

前回に引き続き、開催中の企画展「中上良子　陶磁器デザイナー・エマイユ作家として」に関連して、今回は、中上良子の陶磁器デザイナーとしての側面をご紹介します。

昭和26年（1951）、多治見の太洋陶園に入社し、陶磁器デザイナーの日根野作三（1907－84）と出会った中上は、日根野に導かれて上絵付の仕事に携わります。この頃の太洋陶園には、Gペンを用いた「ペン描き」と呼ばれる上絵技法が日根野によってもたらされ、洋食器に和風の絵を描いた製品が展開されていました。日根野は、画一的な文様を描く職人の世界にまだ染まりきらない中上の線を評価しました。

昭和30年（1955）になると、中上は日根野を介して下石町の知山陶苑に入社します。そこで中上が主に手掛けたのは、銅版転写の文様デザインでした。これまで手掛けてきた上絵付の世界から一転し、彫りと腐食時間を中上自ら調整することで現れた中上らしい線の表現で自身の世界を展開していきました。昭和36年（1961）には、製品図案が第4回輸出陶磁器デザインコンクールで中小企業庁長官賞を受賞。同40年には、中上デザインの銅版転写を施したコーヒー碗皿がグッドデザイン賞を受賞し、陶磁器デザイナーとしての立場を確かなものにしました。同時に、中上は個人で仕事を請け負うようにもなります。昭和33年（1958）には、新設された土岐市立陶磁器試験場で講師に任命され、30年以上務めました。同40年頃には伊奈製陶（常滑）や香蘭社の製品デザインにも関わり、陶磁器デザイナーとしての活躍の場を広げていったのです。その後、新たに展開される中上良子のエマイユ（七宝）作家としての側面は次回ご紹介します。



銅版皿
香蘭社（銅版：中上良子）
昭和30−40年代



銅版モーニングセット
知山陶苑（銅版：中上良子）
昭和30−40年代

企画展のご案内

中上良子
陶磁器デザイナー・
エマイユ作家として

会期：８月13日（土）～11月13日（日）



古い写真を集めています

土岐市の昔の街並みや製陶風景、地域の行事の様子など、懐かしい写真をお持ちの方はぜひ当館にご連絡ください。

美濃陶磁歴史館（☎㊺1245）